

第21回生命科学先端研究センター 学術セミナー

日時：平成18年1月27日(金) 午後4時から

場所：医薬研究棟3階 ゼミナール室(1)(2)

講師：豊田 真弘 先生
(大阪府立大学 大学院理学系研究科 教授)

演題：「触媒的環化アルケニル反応の開発と天然物合成への展開」

内容

1979年伊藤・三枝らは、不飽和エノラートが1当量の酢酸パラジウムの存在下に β , γ -不飽和環状ケトンを与える、いわゆる環化アルケニル化反応を開発した。本反応は、緩和な反応条件下に高収率で不飽和環状ケトンを与えることから、これまで様々な機能を持つ多環状分子の合成に利用されてきた。しかしながら、比較的高価な酢酸パラジウムを化学量論量必要となる点と、生成するタール状の0価のパラジウムが特に大量合成の際に収率の低下を引き起こすことから、再現性のある触媒的環化アルケニル化反応の開発が強く望まれていた。

講演では、著者らが触媒的環化アルケニル化反応を開発するまでの経緯と、天然物合成への展開について紹介する。

※ 本セミナーは、大学院薬学研究科講義「分子設計学特論」の単位認定の対象となります。該当する大学院生の方は受講して下さい。

問い合わせ先：根本英雄（内線7530，薬学部教授，分子・構造解析分野長）